

最近の原油価格に影響を与えたと思われる出来事及び公的機関による発表

I. 出来事

① OPEC プラス、原油減産合意:

4 月 9 日及び 13 日未明、石油輸出国機構(OPEC)及び非 OPEC メンバー国からなる OPEC プラス会合の電話会議が開催され、協調減産に後ろ向きなメキシコをトランプ大統領が説得するなどして、「歴史的な」と言われるほどの水準の日量 970 万バレル(世界の生産量の約 10%)の協調減産の合意が形成された([2020 年 4 月 14 日記事参照](#))。

② テキサス鉄道委員会、原油生産規制に関する公聴会開催

4 月 14 日、テキサス鉄道委員会が生産規制に関する公聴会をオンライン方式で開催した。原油生産者、労働者とそれら団体、関係業界、学識経験者等から 52 人のスピーカーが発言し、約 2 万人が聴衆として参加した。スピーカーのうち過半数の 26 人が規制に反対(大手の原油生産者中心)、18 人が賛成、8 人が中立の立場であった。生産規制に関しては 4 月中に結論が出るとされている。

なお、テキサス州は米国の原油生産量の約 4 割に当たる 540 万バレル近く(2020 年 1 月時点)を産出する。

II. 公的機関による発表

1. 在庫量の増加:

① 4 月 14 日に米国石油協会(API)が週間統計速報(Weekly Statistical Bulletin: WSB)で、4 月 3 日から 10 日までの在庫増加量は 1,314 万 3,000 バレル(市場予想は約 1,170 万バレル)と発表。

② 4 月 15 日に米国エネルギー情報局(EIA)が週間石油情勢報告(Weekly Petroleum Status Report)で、4 月 3 日から 10 日までの在庫増加量は 1,925 万バレル(市場予想は 1,500 万バレル)と発表。

2. 需要減少:

① 4 月 15 日に国際エネルギー機構(IEA)が石油市場報告(Oil Market Report: OMR)で、2020 年の世界の原油需要量は前年比で 930 万バレル減少する見込みと発表。

② 4 月 16 日に OPEC が月間石油市場報告(Monthly Oil Market Report)で、2020 年第 2 四半期の世界の原油需要は日量 1,200 万バレルほど縮小する見込みであり、4 月のみについては日量約 2,000 万バレル縮小する見込みとの予測を発表。

3. 世界経済:

① 4 月 14 日に国際通貨基金(IMF)が世界経済見通し(World Economic Outlook)で、2020 年の世界経済の成長率はマイナス 3%と発表([2020 年 4 月 15 日記事参照](#))。

② 4 月 17 日に中国国家统计局が 2020 年 1~3 月の国内総生産(GDP)は、物価変動を除いた実質で前年同期比 6.8%減と発表。